

AceDo Workspaceについて

AIと人が共に働く、
新しいワークスペースのかたち



AceDo Workspaceとは

誰が・何に・どれだけ使ったか。会社のAI利用が見える。AceDo Workspaceは、社員のAI利用を会社のアカウントのもとに置き、記録を残し、うまくいった使い方を「指示書」として会社に蓄積していく、法人向けのAI管理プラットフォームです。

3つの特長

01

見える

誰が・いつ・どのAIを・何に使ったか。利用記録と管理者ダッシュボードで、社内のAI利用を経営者が把握できます。

02

守る

各AIベンダーの法人向けAPIのみを利用。入力内容がモデルの学習に使われない経路で、会社が契約主体になります。

03

残る

会話から生まれた良い指示を「指示書」として登録。個人の中にあるノウハウが、引き継げる会社の資産になります。

個人向けAIサービスとの違い

	個人向けサービス	AceDo Workspace
契約主体	社員個人	会社
使えるモデル	契約したサービスのもの	ChatGPT・Gemini・Claude・Grokを会話ごとに選択
入力内容の学習利用	設定による	使われない（法人向けAPI）
利用記録	会社には無い	誰が・いつ・何に使ったかが会社に残る
うまくいった指示の共有	個人の中に留まる	「指示書」として台帳に登録し、社内で再利用
退職・異動	会社は停止できない	会社が権限を変更。指示書は引き継ぎ待ちにして次の担当へ
費用	人数分の定額	プラットフォーム利用料+使った分のAI利用料

ISO/IEC 42001（AIマネジメントシステム）準拠

ISO/IEC 42001は、組織がAIシステムを安全・倫理的・透明性高く開発・運用するための世界初の国際規格（2023年12月発行）です。AceDo Workspaceはこの規格に準拠した設計です。

「指示書」 — ノウハウを会社の資産にする仕組み

AIへの良い指示は、社員の頭の中と個人の会話履歴の中にあります。AceDo Workspaceは、その指示を「指示書」として会社の台帳に登録し、状態を管理し、引き継げるようにします。

会話が指示書になるまで

会話する	仮登録	稼働中	引き継ぎ待ち	停止中
モデルとテンプレートを選んで、普段どおりAIと会話する	うまくいった会話から、指示書を仮登録する（下書き）	管理者が確認し、稼働中にすると台帳に載り、社内の誰でも実行できる	担当者の異動・退職時は、引き継ぎ待ちにして次の担当を待つ	使わなくなった指示書は停止。記録は残る

指示書の状態変更は、すべて利用記録に「誰が・いつ・どの指示書を・どの状態に」として残ります。

台帳で管理できること

指示書台帳	社内で稼働中の指示書の一覧。誰が作り、何回実行されたかが分かる
よく使われた指示書	ダッシュボードに、今月実行回数の多い指示書が表示される
目を向けるべき指示書	下書きのまま放置されている、または引き継ぎ待ちの指示書が管理者に示される
作れる人／今月使った人	指示書を作れる権限のある人数と、今月実際に使った人数。活用の広がりを見る指標
貯まった指示書	会社に蓄積された指示書の数と、今月の増加数

なぜ「指示書」なのか

AIの成果は、モデルの性能ではなく「何をどう指示したか」で決まります。個人アカウントでは、その指示は本人しか持っていません。指示書として登録すれば、新しく入った社員も同じ品質でAIを使え、担当が変わっても業務が止まりません。これが「成果を会社の資産にする」ということです。

利用者の画面

社員は「新しい会話」からAIを使い始めます。モデルとテンプレートを選び、資料を添付し、必要なら社内のデータベースを参照しながら会話をします。



会話画面 — モデルやテンプレートを選び、最初のメッセージを送る

会話でできること

モデルの選択 ChatGPT・Gemini・Claude・Grok から、会話ごとに選ぶ

テンプレート 用途に合わせたテンプレートを選んで開始（任意）

添付 ファイルを添付して会話に使う

ウェブ参照 必要に応じてウェブの情報を参照する

データベース参照 社内のデータベースに登録された資料を参照して回答させる

詳細設定 会話ごとの細かい設定

サイドメニュー

指示書台帳 社内で稼働中の指示書を見て、実行する

データベース 会話で参照できる社内資料の置き場

作成物 会話から生まれた成果物の一覧

テンプレート 会話の型として使うテンプレート

アップロードした資料の扱い

データベースに登録した資料は、閲覧権限のあるアカウントの会話において参照情報として利用されます。資料そのものを画面上で閲覧したり、ダウンロードしたりすることはできません。

管理者の画面

管理者は、ダッシュボードで「今月、御社で変わったこと」を見て、利用記録で「誰が・いつ・何に使ったか」をたどれます。

管理メニュー

ダッシュボード 今月の利用状況と指示書の動き

メンバー管理 メンバーの追加・停止、グループの作成と所属

AI設定 使えるAIモデルの設定

ログイン設定 ログインに関する設定

利用記録 操作の記録とAIの利用量

棚卸レポート 利用状況の棚卸し

ダッシュボードの指標

AIを使った回数	今月の会話回数と先月比
指示書の実行回数	登録済みの指示書が実行された回数
貯まった指示書	会社に蓄積された指示書の数
作れる人／今月使った人	権限のある人数と、実際に使った人数
最近の出来事	誰が何をしたかの時系列

利用記録で分かること

日時・メンバー	いつ・誰が
操作	会話の作成、指示書の仮登録・状態変更、グループの作成・所属変更など
使ったAI	どのモデルを使ったか
対象・補足	どの会話・指示書に対して、何をしたか
AIの利用量	別タブで、AIの利用量を確認

操作の記録には会話の本文は含まれません（題名・名前まで）。期間・メンバー・操作で絞り込み、CSVで書き出せます。

利用記録

誰が・いつ・何に AI や台帳を使ったかの記録です。

操作の記録

AI の利用量

操作の記録

本文は含みません（題名・名前まで）。

↓ CSV 書き出し

年 / 月 / 日

～

年 / 月 / 日

すべてのメンバー

すべての操作

日時	メンバー	操作	使った AI	対象	補足
2026/09/14 10:43	運営者 (AceDo)	グループの所属を変更	—	グループ1	追加 1 人 / 削除 0 人
2026/09/14 10:43	運営者 (AceDo)	グループを作成	—	グループ1	—
2026/09/14 10:38	運営者 (AceDo)	指示書の状態を変更	—	串打ち三年の言い回し	状態を変更: 引き継ぎ待ち

利用記録 — 操作の記録。本文は含まず、題名・名前まで

セキュリティとデータの取り扱い

「入力した情報がどこへ行き、いつ消えるのか」に、あらかじめ答えられるようにしています。

AIモデルとの接続

利用するAI	OpenAI（ChatGPT）／Google（Gemini）／Anthropic（Claude）／xAI（Grok）の各法人向けAPI
学習への利用	入力内容はモデルの学習に使われません（法人向けAPIの条件）
AIベンダー側の保持	不正利用の監視のため原則30日間保持されたのち削除されます（各社のポリシーによる）
処理の場所	AI側の処理は海外で行われる場合があります。国内固定のご要望は個別にご相談ください

AceDo Workspace上のデータ

保存されるもの	会話の入力・履歴、指示書、作成物、データベースに登録した資料、操作ログ
保存期間	会話の入力・履歴は原則1年、操作ログは3年
サーバー	国内。企業ごとに論理分離し、暗号化して保存
運営者による閲覧	通常は閲覧しません。障害対応が必要な場合は、事前のご了承のうえ、限定された担当者が、記録を残して対応します
個人データの整理	お客様の個人データは「委託」として扱い、各AIベンダーとはデータ処理契約（DPA）を締結しています

会社としての統制

- 社員は会社のアカウントでのみ利用。個人契約のアカウントによる野良利用を統制下に置けます
- 退職・異動時は、会社がアカウントの停止・権限の変更を行えます。指示書は引き継ぎ待ちにして次の担当へ
- 操作の記録は会話の本文を含まない設計で、管理と社員のプライバシーの両立を図っています

※ 各AIベンダーのポリシーは変更されることがあります。最新の条件は導入時にご説明します。

PRICE

料金

初期費用なし。5名から始められます。

月額プラットフォーム利用料

10万円

税抜／基本5名まで

AI利用料	従量課金（使った分だけ）
6人目以降	追加 5,000円／名／月
初期費用	なし

含まれるもの

- ・ 利用ログの可視化
- ・ 社内共有機能（指示書台帳・資料・テンプレート）
- ・ 法人API限定の堅牢なセキュリティ
- ・ ChatGPT・Gemini・Claude・Grokからモデルを選択
- ・ 管理者ダッシュボード・利用記録のCSV書き出し

※表示価格は税抜です。月額プラットフォーム利用料とは別に、各AIモデルの利用量に応じたAI利用料がかかります。

料金の考え方

個人向けの月額プランは、使っても使わなくても同じ料金です。AceDo Workspaceは、プラットフォーム利用料に加えて、AIの利用料を使った分だけお支払いいただく形です。利用記録で誰がどれだけ使っているかが見えるため、部署や人ごとの目安を決めながら運用できます。

無料トライアル — 毎月先着5社様限定

10,000円分の利用を無料でお試しいただけます。期間は最長1ヶ月です。実際の業務で使ってから、導入を判断できます。

導入の流れ

01 AceDo Workspaceを知る

本資料で全体像と機能をご確認ください。ご不明な点はお問い合わせフォーム、またはお電話でどうぞ。

02 オンラインで説明を受ける

無料相談で、機能・料金・導入の進め方をご説明します。御社の利用人数や用途に合わせて、運用の形をご提案します。

03 申込み・利用開始

お申込み後、アカウントを発行して利用を開始します。オーナー・管理者・一般の権限区分を設定し、社員の方は初回ログイン時に社内ルールを確認してから利用を始めます。

導入時に整備するもの

生成AI利用規程	会社としてのAI利用の方針。目的、使ってよい環境、入力してよい情報の範囲、責任の所在
社員向けルール（A4一枚）	社員が守る数項目のルール。読んで分かる長さにする
初回ログイン時の確認事項	社員が利用を始める前に確認・同意する内容。規程の要点をチェック形式で
アカウントの権限区分	オーナー／管理者／一般の3区分。誰がどの区分かを定める
社内説明会	オンラインで、使い方と守ることを説明

これらの整備は導入時にご相談いただけます。規程のたたき台は御社の実態に合わせて調整します。

運用イメージ

役割	できること
オーナー	契約・請求の管理、管理者の指定、全体の設定
管理者	メンバーの追加・停止、利用記録とダッシュボードの確認、指示書・テンプレートの整備
一般	AIとの会話、共有された指示書・テンプレートの利用、成果物の共有

※権限の詳細は導入時にご案内します。

よくあるご質問

Q. 料金はいくらですか？

A. 月額プラットフォーム利用料は100,000円（税抜・基本5名まで）です。6人目以降は1名あたり5,000円／月が加わります。初期費用はありません。これとは別に、各AIモデルの利用量に応じたAI利用料（従量課金）がかかります。

Q. どのAIモデルが使えますか？

A. ChatGPT・Gemini・Claude・Grokに対応しています。会話ごとにモデルを選べ、どのモデルを使ったかは利用記録に残ります。

Q. 入力した内容がAIの学習に使われることはありますか？

A. ありません。AceDo Workspaceは各AIベンダーの法人向けAPIを通じて利用する仕組みで、入力内容がモデルの学習に使われることはありません。

Q. 管理者は何を確認できますか？

A. 誰が・いつ・どのAIを使ったかの利用記録と、管理者ダッシュボードで社内の利用状況を確認できます。利用記録はCSVで書き出せます。

Q. アップロードした資料は、他の社員が見られますか？

A. アップロードした資料は、閲覧権限のあるアカウントの会話において参照情報として利用されます。資料そのものを画面上で閲覧したり、ダウンロードしたりすることはできません。

Q. 何名から利用できますか？

A. 5名から始められます。月額プラットフォーム利用料に5名分が含まれており、6人目以降は1名単位で追加できます。

Q. 無料トライアルの内容を教えてください

A. 10,000円分の利用を無料でお試しいただけます。期間は最長1ヶ月で、毎月先着5社様までです。

Q. 社内のルールづくりも相談できますか？

A. はい。AI利用規程、社員向けのルール、初回ログイン時の確認事項の整備についてご相談いただけます。

運営会社

社名	AceDo株式会社
代表者	代表取締役 伊佐治 秀麿
所在地	〒150-0047 東京都渋谷区神山町11-15 神山フォレスト308
事業内容	AI研修・コンサルティング、AI管理プラットフォーム「AceDo Workspace」の提供、コワーキングスペース「AI Village produced by SHIDAX」の運営
Web	https://acedo.jp/

お問い合わせ

電話: 03-4400-4199 (平日 10:00~18:00)

メール: contact@acedo.jp

資料のご請求・無料相談・無料トライアルのお申込みは、上記までお気軽にどうぞ。営業のしつこいご連絡はしません。